



沼高トピックス 芸術鑑賞編

第183号 令和6年11月13日(水)発行



11月7日(木)に芸術鑑賞を実施しました。
本校では、年ごとに演劇→音楽→古典芸能の順で内容を変えており、今年は古典芸能として「学校寄席」を鑑賞しました。
まずは、雷門小助六さんによる“寄席入門”。
本日の寄席のプログラム、落語のルーツ、噺の種類や小道具などについて、わかりやすく親しみやすく説明をしていただきました。

トップバッターはこの日の紅一点、春風亭一花さんの落語でした。
ご自身の高校生の頃のエピソードをまくらに、軽快な語り口とオチで、緊張気味だった生徒に笑いの道を通してくださいました。



次に“寄席入門”の説明をされた雷門小助六さんの落語でした。
同じくご自身の過去の学校寄席でのエピソードをまくらに、テンポのいい語り口で、「ここが笑い時」を逃さず、会場全体を笑わせてくださいました。



お仲入り（休憩）のあとは、柳貴家雪之介さんによる色物（大神楽曲芸）でした。
傘・鍬などを使い、玉や桵、出刃包丁などを回す曲芸でした。
生徒の飛び入り参加もあり、大変盛り上がりました。



この日のトリは、十一代目桂文治さんでした。さすが真打とあって、その語り口や身振り、表情でいつの間にか会場全体が引き込まれていました。
噺の最後のオチでワッと笑いが起こり、楽しい“学校寄席”もお開きとなりました。出演者の皆さま、ありがとうございました。